

奈良女子大学 文学部

古くからグローバルなつながりを持っていた奈良盆地で、斬新な問題意識を持ちながら、社会に対する批判力や、歴史と文化に対する深い認識、そして人に対する感受性と洞察力をもった人材を育てます。



■大学生
鈴木花 さん



■先生
今野弘章 先生



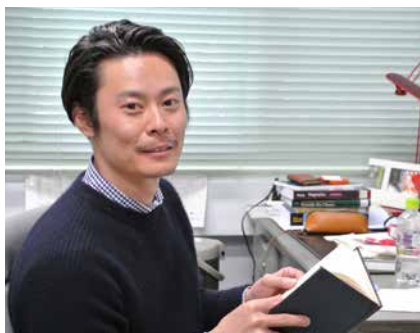
■卒業生
平木絢子 さん

CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

●プロフィール

奈良女子大学 文学部の特色を教えてください。



■先生

まず全体的な特色として、本学はすべての都道府県から入学者が集まっていますので、古都・奈良の地にありながらも「全国型」の大学だと言えるでしょう。その中で文学部は「人文社会学科」「言語文化学科」「人間科学科」の3つの学科で構成されていますが、入試は志望学科を募らずに実施しているというユニークな面を持っています。学科を決めるのは2年生からで、まずは大きな括りである文学部に入学し、

幅広い授業を自由に履修する中で自分が専門的に学びたい分野を絞っていくことができます。

■大学生

私はもともと文学を学びたくて入学しましたが、様々な授業を受けていくうちに言語学の分野にも興味を持つようになりました。2年生で「言語文化学科」を選択し、さらに専門が細分化される3年生から「ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース」に進みました。

■先生

進路決定で迷っている高校生の方、例えば、「文学部への進学は決めているけど、学科選択で悩んで

いる」「実際に大学の授業を受けてから自分の専門を考えたい」という人にとっても本学部は学びやすいところだと思います。

平木さんは大学時代に何を専門に学ばれていましたか？



■卒業生

鈴木さんと同じく私も「言語文化学科」から「ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース」に進み、4年生から英語の無生物主語構文を専門に研究しました。もともと日本語と英語の違い、訳し方の違いなどに興味があり、中学や高校で勉強していた時から英語は無生物主語が多い言語だなと感じていたので、大学で専門的に掘り下げてみようと思

いました。

■大学生

現在は中学校で英語の先生をされているとお聞きしましたが。

■卒業生

はい。卒業後は地元の石川県に戻り、公立中学校で英語を教えています。

■先生

教員になって何年になりますか？

■卒業生

2014年の3月に卒業し、4月から教職に就いていますので3年になります。

今野先生が研究されている専門分野を教えてください。

■先生

大きな括りで言いますと「言語学」「英語学」が専門です。その領域で人間が使っている言語にはどのような性質が潜んでいるのか、さらに、その言語を使う人間の存在とは一体どういうものなのか、そういったことを究極的に考える上で、私は「例外」とされる言語表現、「破格表現」に注目して研究しています。

例えば「例外」の表現とはどのようなものなのでしょう？

■先生

中学で習う英単語の[mouse]を例にご説明しましょう。不規則名詞というルールで習う[mouse]は、そのルールの元で複数形にすると[mice]になります。その一方で、不規則ではなく“規則的”な名詞のルールに従って[mouses]という複数形にすると、普通は英語表現として成立しません。でも、この[mouses]が実際に使われる「例外」の事実もあります。「コンピュータマウス」の意味の時は[mice]も[mouses]も複数形として許されます。

しかし、使用できる範囲は両者で異なります。[mice]はネズミの意味でもコンピュータマウスの意味でも使えるので、[two mice]とした場合、「2匹のネズミ」「2つのコンピュータマウス」のいずれにもなります。これに対して[two mouses]は、「2つのコンピュータマウス」という意味にしかありません。これを見ると、例外とされる表現は、例外でない表現に比べて使える幅が狭まることがわかります。このように様々な「例外」の現象や性質を明らかにし、その背後にどういった規則性があるのかを探究するのが非常に面白く、英語のみならず母語である日本語もターゲットにして研究に取り組んでいます。

●大学生活について

こちらの文学部を志望した理由を教えてください。

■大学生

幼い頃からずっと本を読むのが好きで、隙があればすぐに本を開く子供でした。とにかく好きすぎて学校の宿題を放っておくこともあったくらいです。ですから高校で進路を考える時は、文学部に行くことを先に決めて、国文学でも英文学でもとにかく小説の分析や研究をやってみたいと思っていました。

■先生

本学を受験しようと思ったのはいつ頃でしたか？

■大学生

センター試験が終わった直後です。私は数学が苦手でしたので、得意教科の英語と国語を活かすことを考えて奈良女子大学に決めました。

■先生

平木さんの志望動機は？

■卒業生

私は学部選択で高校時代に結構迷いました。教員志望だったので、最初は教育学部への進学を考えていたんです。そして具体的に進路を決める時に高校の先生に相談すると、「教育学部でなくても教員免許は取れるよ」と教えてもらい、それがきっかけで文学部志望に変更しました。

■先生

そこでなぜ文学部を？

■卒業生

私がこれまで出会ってきた憧れの先生は、ご自身が教えている教科のことが大好きな方ばかりで、とても素敵だと感じていました。将来は私もそういう先生になりたかったので、文学部に進学して好きな英語の専門性を高めようと思いました。

入学後の授業で印象に残っているものはありますか？



■大学生

私は2年生の時に受けた今野先生の「英語分析論特殊研究」が印象に残っています。

■先生

言語の構造を考える授業ですね。

■大学生

一般的に“言語の構造”と聞いても、それがどういうものなのか具体的にわかりにくいと思います。実際に私もそうだったのですが、授業では先生が主語と目的語の構造や関係性を樹形図で説明してくださいました。樹形図は数学の確率の授業で使うイメージがありましたから、「まさか言語学の授業に出てくるとは！」とびっくりしました。

■先生

鈴木さんは“明確にできる喜び”を知ることができたのではないのでしょうか。目に見えないもの、それは言葉の構造であったり、意味であったりしますが、人は言葉を見聞きすると何となくイメージを頭に描きますよね。でも、それはあくまでもイメージであって、曖昧模糊としたものです。この授業では、それをどうすれば明確にできるのかを考え、議論も交えながら学びます。

■大学生

先生が「感情でどうこうするのではなく、論理的な組み立てで結論を出すことができる」と話されていたのは今でも覚えています。言語学という学問に対して文系のイメージしかなかったので、数学的な論理で言語の構造を立証できることがわかりとても驚きました。

平木さんが印象的だった授業はありますか？

■卒業生

「ヨーロッパ・アメリカ言語文化学卒業論文演習」という4年生の授業で今野先生の指導を受けましたが、その時に「なんて頭を使う授業なんだろう!」と感じました。

3年生までの授業は、どちらかと言うと座学の知識を自分の中にインプットするものが多かったのですが、この授業は英語の論文を読み、そこから学生が個々にレジュメを作成し、それを元に自ら感じたことや考えたことを毎週発表しなければなりません。その準備は大変でしたが、「学んでいる」という実感がありました。

■先生

卒業論文に取り組む4年生に対しては、学生であっても“一人の研究者”という目で指導します。そういう意味で、学生が主体的に取り組む授業を通して、自ら掲げたテーマを追究する流れを実際に体験することは、よい論文を仕上げる上でも必要なことです。

鈴木さんの卒業論文のテーマは決まっていますか？

■大学生

具体的な決定はゼミの配属後になりますが、今考えているのは、フィクションに登場する人物が役割を表す際に用いる言葉について研究したいと考えています。例えば、男性であれば博士やお年寄りのキャラクターが「～である」「～じゃ」と言ったり、女性なら「～かしら」「～だわ」という言葉を使うことがあります。主に日本語のフィクションで見られる表現ですが、それが英語でも似たような表現法があるのかを探ってみたいです。

■先生

日本語で言う終助詞の表現ですね。過去に「女性言葉」の研究をした卒業生がいましたから、その方の論文を一度読まれるのもいいでしょう。

■大学生

ぜひ読んでみたいです。私が研究したいテーマに近いと思いますので、参考にさせていただきます。

先生が学生に教える時に心掛けていることは何でしょう？

■先生

学生たちが“証拠の積み重ね”で議論できるような授業を構成できればという心掛けは常に持っています。私から学生に「なぜそのように考えるべきなのか?」と説明する時も、「こういった言葉の証拠がある → それをまとめるとこうなる → だからこう考えられる」というように、適宜具体性を示しながら教えるようにしています。

また、学生たちにレポートを書いてもらう時も、「どう思った」「どう感じた」という感想文のようなものではなく、自分の主張点を支える証拠を必ずセットで探してきてもらいます。

■卒業生

そういった学びができるのは、高校と大学で大きく違うところかもしれませんね。



■先生

そうですね。考えた後に導かれる結論は自由で構いませんが、どういう思考のプロセスでそこに至ったのか、根拠を元にきちんと表現できるかがとても重要です。これをキーワードで言えば「論理的思考力」になりますが、この力は本学部での学びを終えたあとも社会で役に立つものですので、それを学生たちが育めるような授業を意識して行っています。

●就職活動、仕事について

平木さんはどのような時に教員のお仕事のやりがいを感じますか？

■卒業生

事前に準備をした授業を行い、生徒たちが「わかった！」という顔をしてくれた時はすごく嬉しくて、教員になってよかったと実感できます。

■大学生

生徒たちの反応はその場で感じられるものですか？

■卒業生

やっぱりわかりますね。生徒が納得し、いい表情をして授業を受けていると、教室に一体感が生まれます。そういう時は「よしっ、今日の授業はキタな！」と思わず心の中で叫びます。

■先生

大学の授業も同じで、学生の表情から直接何かを感じる瞬間はありますね。教えている中でふとした時に、学生が「はっ」と何かに気づいた様子で、まるでジェスチャーのように目を開くことがあります。私の講義のどの部分が訴えかけたのかはわかりませんが、とにかく何かひらめいたんだろな、と。そういうのがわかると、平木さんと同じく、教える立場の者としては非常に嬉しいです。

他の卒業生の方はどういう分野で活躍されていますか？

■先生

平木さんのように教員になる人もいれば、公務員になって役所に勤める人もいます。もちろん一般企業に就職される方もたくさんいます。平木さんの同期も様々な分野で活躍されているんじゃないですか？

■卒業生

私の同期の一人は、卒業後にシンガポールへ渡って日本語教師の職に就きました。他には銀行に就職した人もいます。その人は留学経験があったので、海外勤務を希望して総合職で採用されました。

■先生

こちらの奈良女子大学に就職した卒業生もいますね。職員として教務の仕事を担当し、授業の運営に携わっています。

■卒業生

奈良の地で学んだことがきっかけで、そのままこちらに就職して残られる方は結構いらっしゃいますよね。

■先生

そう。面白いと感じるのは、奈良にゆかりのある学生でなくてもこちらに残る卒業生が結構多いんです。奈良県庁に就職した人もいますし、地元の金融機関に勤める人もいます。

歴史があって落ち着いた街という奈良の印象は誰もが抱いているでしょうけど、それ以外にも大阪・京都・神戸といった大都会に電車1本で行けますからアクセスのよさも魅力です。普段は奈良でゆったり暮らし、出掛けたい時は利便よく大都会にも行ける。そういった暮らしやすさが肌に合う人が多いのかもしれない。

鈴木さんは就職活動を始めているのですか？



めた頃からです。

■先生

本学にはキャリアサポートルームがありますが、足を運ぶことは？

■大学生

はい。面接の練習などもしてもらえますし、スタッフの方が「就職に関することなら何でも気軽に相談しに来て」と親身になって言ってくれるので安心感があります。

■卒業生

私が在学していた時も相談に乗ってもらっている友達は結構いました。エントリーシートの書き方もアドバイスしてもらえますし、添削もしてくれます。

■先生

キャリアカウンセラーの資格を持った職員が適宜アドバイスをしてくれるので、こういうサポート体制が整っていると学生にとって心強いと思います。

● 5 年後に向けて

将来の目標や夢について教えてください。

■先生

鈴木さんはイギリスに留学していましたね。

■大学生

3 年生の 9 月から 4 年生の 7 月までの 10 カ月間、ホームステイをしながらオックスフォードの語学学校に通っていました。

■先生

その経験を活かして将来やりたいことはありますか？

■大学生

身につけた英語力を将来どう活かすかといったビジョンはまだ持っていません。ただ、留学して様々な国の人に出会えたことは大きな経験になったので、これから生きていく上で世界をより身近にとらえることができていると思っています。

ホームステイ先でお世話になったお父さんはパキスタン系イギリス人でイスラム教を信仰されていたので、帰国後、中東の内戦のニュースを見ると今まで以上に真剣に考えるところがありますし、他の国でも何か問題が起きればそれは自分の問題でもあると感じます。こういう意識はこれからもずっと持ち続けていきたいです。

■先生

平木さんはいかがでしょう？

■大学生

既に始めています。今のところ英語教育関係の仕事に興味があるので、そういった会社の説明会に参加し始めています。

■先生

英語教育の仕事に興味を持ったのはいつ頃ですか？

■大学生

就職を考える時期になって各業界を調べ始

■卒業生

私は自分が志した通り英語の教員になることができましたので、将来的に何か新しいことというより、今の仕事にしっかり向き合って先生としてもっと深みのある人間に成長したいです。そのためには自分の英語力をさらに高めることが必要だと考えています。現在、英語教育は過渡期に入り、教員に求められることも多くなっています。生徒が将来、本当に英語を使えるようになるにはどういった授業が必要なのかを今まで以上に考え、実行していくことも今後取り組むべきテーマの1つです。



■先生

大学で学んだことが活かせていると感じる時はありますか？

■卒業生

大学時代は奈良女子大学の附属中等教育学校で教育実習を受けましたが、そこで学んだことは教員の仕事をする上での“芯”になっています。附属中等教育学校の教壇に立つ先生方は教育者として第一人者の方ばかりで、常にレベルの高い授業をされていました。それを間近に見られたことで“理想の英語教育像”を持つことができました。

■先生

当時教わったことで心に残っていることはありますか？

■卒業生

指導していただいた先生から「英語は、目的としてではなく、ツールとして教えなさい」「授業で使う例文にしても、現実感のある“genuine English”でなければならない」と言われたことは今でも心に残っています。私は言語学としての英語が好きだったので、どうしても言葉の仕組みを優先して教えがちでした。ですから教育実習の場でそのような指摘を受けた時の衝撃はとても大きかったです。

今野先生が今後取り組んでいきたいことは何でしょう？

■先生

先にもお話ししましたように、私は言語の「例外」に注目し、そもそも例外には何があるのか、例外があった時にどういう性質を見せるのか、そういうことを文法的に考えながら研究しています。しかし、その研究を通じて、大きな意味での“日英語の差”がどこから来ているのかまではまだ辿り着くには至っていません。ですから、今後研究を続けていく中で、これまで以上に様々な「例外」を見ていき、その現象を導いている見えない原理のようなものに最終的に辿りつけたらいいなという思いはあります。そういう夢を見ながらこれからも言語の研究に携わっていきます。

●高校生へのアドバイス

こちらの学部をめざす高校生にアドバイスをお願いします。

■卒業生

今後の進路を考える上で“可能性を広げる”ということ言えば、今自分が思っていること・考えていることにあまり固執しすぎないほうがいい場合もあります。色々なことに興味を持って、物事を幅広く見ることで新たな可能性が広がることもありますから。

■先生

受験勉強に向き合う上で何かアドバイスはありますか？

■卒業生

「大学に入ったらこんなことをしたい！」という楽しみの部分をたくさん想像し、それを励みに勉強すると、きっとモチベーションが上がると思います。実際に大学は、学問も遊びも、自分のやりたいことができる楽しい場所ですから、高校生の皆さんも頑張って受験勉強を乗り越えてほしいです。

■先生

鈴木さんから何かアドバイスできることは？

■大学生

私は高校時代、勉強よりも部活に力を入れていました。もちろん部活をやり続けたことは後悔していませんが、今思えば、もう少しどの教科もバランスよく勉強しておけばよかったという気持ちも正直あります。特に、苦手だった数学を何とかしていれば、進路を考える時にもっと選択肢を増やせたのではないかと。

■先生

だからといって勉強優先で部活をやめるのはもったいないですよ。

■大学生

そう思います。私が入っていた剣道部は稽古がとても厳しかったのですが、自分に負けずに乗り越えたことで、受験勉強に向き合える精神力がつけました。

最後に先生からアドバイスをお願いします。

■先生

進路を決め兼ねている高校生がいるとすれば、「自分は何に興味があるのか？」をまだ見つけられていないからかもしれません。もしそうであれば、学校で授業を受ける中でもいいですし、色々な本を読む中でもいいので、その時々を感じる「これはどういうこと？」「なんでだろう？」という“不思議”を蓄えてみてください。それを自分の中で結びつけていくと大学で何を学びたいのかを考えるヒントになるでしょう。

そして、そこで感じた“不思議”の答え、「なぜそうなっているか？」の答えは、高校時代に焦って求めなくても大丈夫です。不思議は不思議のままとおき、大学でその答えを考えればいい。それをできる場が大学です。

■大学生

奈良女子大学はそういうことに取り組みやすい環境があると私は感じています。

■先生

本学の素晴らしいところは、当たり前のことかもしれないけれど、真面目に学問に向き合う人をちゃんと尊重する雰囲気があることです。すごく基本的なことですが、それがしっかり整っている大学です。教員がやりなさいというのではなく、学生たちが自主的に取り組む中で生まれる雰囲気で、それが自然に出来上がっているところに私はすごさを感じます。

■卒業生

「真面目にやらなきゃだめ」という圧迫感ありませんから、ゆとりを持って大学生生活を送れると思います。

■先生

本当にその通りで、本分の学業に加え、サークルも遊びもやりたいことを自由に満喫している学生はたくさんいます。そうした本学での楽しい生活を想い描き、「入学したら私も！」という思いでまずは今の高校での学びを大切に、これから取り組む受験勉強をぜひ乗り越えてください。

大学構内のお気に入りのスポット



■先生

キャンパスでお気に入りのスポットはどこでしょう？

■大学生

私は“奈良女の象徴”でもある記念館（重要文化財／旧奈良女子高等師範学校本館）が好きです。

■先生

“正門込み”で眺めた時の佇まいは素晴らし

いですよね。

■卒業生

正門を入れて記念館の写真を撮るとすごく趣があって素敵です。

■大学生

平木さんが在学時代にお気に入りだったところは？

■卒業生

学食の「KOTO.KOTO.Kitchen」は、かなりのお気に入りでした。バイキングスタイルで、家庭的なものからおしゃれなものまで、豊富なメニューをお手頃価格で楽しむことができます。全国の学食学生満足度 No.1 に輝いたこともあります。

■大学生

自慢できる学食です。

■卒業生

先生はどこかお気に入りのスポットはありますか？

■先生

キャンパスの外ですが、夕方の興福寺に足を運ぶのが好きです。観光客がほとんどいなくなったあとの静かな雰囲気がすごくよくて。

■卒業生

“人がいない夕方”がポイントですね。

■先生

そう。寂しげな雰囲気が何とも言えなくて。夏は寝そべって夕涼みをする鹿の姿も見られて、とてもんびりした空気感が漂っています。人のいない夕暮れ時の興福寺はイチオシです。

●インタビューに答えていただいた方々●

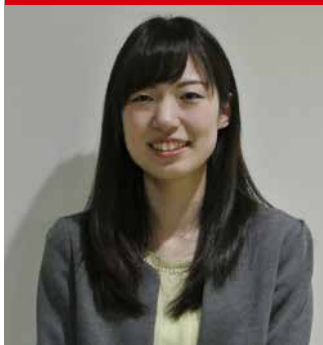


■先生

今野弘章先生

奈良女子大学研究院人文科学系言語文化学領域准教授

神奈川県立横浜沼平高等学校出身。茨城大学人文学部人文学科卒業、筑波大学大学院文芸・言語研究科博士課程修了（博士（言語学））。高崎健康福祉大学薬学部講師、和光大学表現学部総合文化学科講師を経て現職。言語における「破格表現」や「例外」の研究が主な専門。日本語文法学会、日本言語学会、日本英語学会所属。「イ落ち：形と意味のインターフェイスの観点から」の論文にて2012年度日本言語学会論文賞受賞。

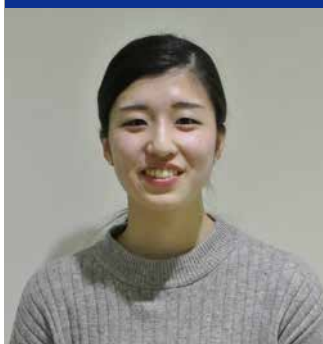


■卒業生

平木絢子さん

小松市立国府中学校勤務

石川県立金沢二水高等学校出身。奈良女子大学文学部言語文化学科卒業。学部時代は英語の無生物主語構文について研究し、「Inanimate Subject Constructions in Japanese and English（日本語と英語における無生物主語構文）」のテーマで卒業論文を執筆。卒業後は地元の石川県に戻り、公立中学校の教諭として生徒に英語を学ぶ楽しさを伝えている。



■大学生

鈴木花さん

奈良女子大学文学部言語文化学科4年生（2016年度取材当時）

愛知県立一宮西高等学校出身。幼少の頃から読書が好きで、早くから文学部を志望。入学後、幅広い授業を受ける中で言語学にも興味を持ち、2年生の学科選択で「言語文化学科」に進む。3年生から「ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース」に所属し、フィクションの表現に見られる終助詞をテーマに卒業論文に取り組む予定。